

君津地域水稲情報 「あぜみち第3報」

平成 26 年 6 月 30 日 君津農業事務所 改良普及課

電話 0438-23-0299 FAX 0438-23-6698

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

★「コシヒカリ」は幼穂形成期を迎える ★幼穂を確認し、生育に応じた穂肥と水管理を！

1 君津地域の生育概況

「ふさおとめ」、「ふさこがね」は穂肥の施用時期を迎えています。「コシヒカリ」は幼穂形成期に入っているほ場もありますので、幼穂長、生育状況を確認して穂肥を施用してください。

4月20日植えの各品種の出穂期は、最も早いところで「ふさおとめ」が7月9日頃、「ふさこがね」が7月10日頃、「コシヒカリ」が7月15日頃と予測されます。

現在の生育状況は、次のとおりです。

- ① 幼穂形成期は早めです。草丈は「ふさおとめ」、「ふさこがね」ではやや高くなっています。
- ② 茎数は「ふさおとめ」で多く、「ふさこがね」、「コシヒカリ」は平年並み～やや多くなっています。

2 生育調査ほの調査結果（幼穂形成期調査）

品種	年	田植え日	草丈 (cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉 葉色	幼穂形成期 ※1
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	26	4/15	63.7	49.5	743	40.4	6/16
	平年	4/16	57.5	42.2	630	45.1	6/19
	平年比	-1	+6.2	+7.3	+113	-4.7	-3
ふさこがね (君津市)	26	4/17	58.4	33.0	640	36.8	6/18
	平年	4/19	55.3	32.9	633	42.6	6/21
	平年比	-2	+3.1	+0.1	+7	-5.8	-3
コシヒカリ (君津市)	26	4/18	63.3	32.0	608	32.7	6/17
	平年	4/20	65.9	31.3	587	33.8	6/26
	平年比	-2	-2.6	+0.7	+21	-1.1	-9
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	26	4/18	65.1	31.1	603	37.0	6/19
	平年	4/21	69.2	32.7	574	38.3	6/26
	平年比	-3	-4.1	-1.6	+29	-1.3	-7
コシヒカリ (木更津市)	26	4/27	61.7	23.8	502	34.3	6/25
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	26	5/5	61.5	25.4	406	37.2	7/1 ※2
	昨年	5/2	65.8	31.0	471	37.6	6/27

※1 幼穂形成期は、幼穂長 1mm となった時で出穂の 25 日前に当たります。

※2 君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場の幼穂形成期は予測値。

3 これからの管理のポイント

① 品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期	冷害危険期予測※1	出穂期予測※2
ふさおとめ	4月20日	6月14日	6月24日頃から	7月9日
ふさこがね	4月20日	6月15日	6月25日頃から	7月10日
コシヒカリ	4月20日	6月20日	7月2日頃から	7月15日
	5月1日	6月24日	7月6日頃から	7月19日

※1 冷害危険期は予測日から8日間。コシヒカリの冷害危険期は君津地域内で最も早い予測日を記載。

※2 出穂期は、君津地域内で最も早い予測日を記載。

② 幼穂を確認したら湛水管理を始めましょう

中干しから出穂後の水管理は以下のとおりですが、特に「2」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。安全な米作りのために注意して管理しましょう。

1 中干しは幼穂形成期に入ったら終了し、以降、出穂3週間前までは間断かんがい

2 出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理

(幼穂を確認したら、この期間は田面が露出しないように管理する。また、基肥一発肥料を使用している場合も忘れずに湛水する)

3 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

③ 「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べ倒伏しやすいので、穂肥は幼穂形成期の葉色、莖数及び草丈から総合的に診断し、慎重に施用しましょう。

幼穂形成期における生育量が適正範囲内であれば、出穂前約18日に当たる幼穂長1cmの時(4月20日植え「コシヒカリ」で6月27日～6月30日頃)に窒素成分で3kg/10a程度を施用します。下表を参考に生育診断を行い、穂肥を調節します。

○幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥、倒伏軽減剤の要否判定

生育量(群落葉色× ㎡当たり莖数の値)	少 (2,000以下)	適正 (2,000～2,500)	多 (目安として2,500以上)	
草丈	70cm未滿		75cm未滿	75cm以上
対策	穂肥の増量、 または時期を 2～3日早める	出穂前18日に 窒素成分で 3kg/10aを施用	穂肥の減量(窒素 成分で1～2kg /10a)、または 時期を遅らせる	穂肥は施用せず 倒伏軽減剤のみ 施用する

※ 群落葉色は、葉色票(富士葉色カラースケール)での葉色値。

④ 斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類の成虫は水稻の出穂後に水田に侵入して産卵し、それらの幼虫が乳熟期～糊熟期に籾を吸汁することで斑点米が発生します。出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田の中に追い込んでしまいますので、畦畔雑草は出穂2週間前頃までに刈り取りましょう。今年はお出穂期が早いと予測されますので遅れないよう注意してください。その後、収穫期まで雑草が繁茂しないよう努めましょう。また、侵入した成虫は早めに下記薬剤等で防除しましょう。

【カメムシ類の主な防除薬剤】

MR.ジョーカー粉剤 DL、エルサンバッサ粉剤 20DL、キラップ粒剤、スタークル粒剤、スタークル豆つぶ

※ 次号は「8月1日頃」発行予定